欄間が伝える日本家屋の陰影礼賛

～　河北町　安部権内家が伝える日本の心・美・粋　～

山形県立谷地高等学校　普通科３年　　東海林　彩華

「日本文学の中での欄間」

天井板がまるで油炭で塗った様に、板の木目もくめも判らぬほど黒い。それでも建ちは割合に高くて、簡単な欄間もあり銅の釘隠しなども打ってある。その釘隠が馬鹿に大きい雁であった。勿論もちろん一寸見たのでは木か金かも知れないほど古びている。

「野菊の墓」より　伊藤左千夫

1　テーマ設定の理由

「欄間（らんま）」を知っている人はどれだけいるだろうか。工場で生産され現場で組み立てられる、現代工法によって作られた家屋が一般化するなかで、和室が減ったことにより、欄間がある家は少なくなった。欄間とは日本の伝統建築と工芸の技の傑作であり、価値のあるものだと考える。近年、欄間の美しさが海外で注目されており、日本の若手作家が欄間の手法活かした、工芸品を作りその伝統を受け継いでいる。

私は、日本の伝統的な建築様式の一つである欄間が作る世界を通し、日本の心や美、そして粋とそこに暮らす人たちの歴史とアイデンティティの再確認を、安部権内家を保存する会の方たちとともに学び伝えたいと考えた。

2　目　的

（1）　日本家屋の建築の中にある「陰影礼賛」の美について欄間を通し研究する。

（2）　安部家の建築様式を通し、当時の人々の暮らしと生き方、そこにある思考を探り、追体験することで「山寺が支えた紅花文化」のストーリーの継承を行う。

4　まとめ・今後の展望

「心」・・・・　欄間の造形だけを楽しむのではなく、伝承やことわざの意味を通し、家訓を子孫に残した。

「美」・・・・　差し込む光や影を、欄間を通して自然の美しさや四季を室内に持ち込む。

「粋」・・・・　欄間に遊び心として謎解き的な「しかけ」をしている（のではないか。）

「欄間」のもつ「陰影の美」を後世に遺したい

欄間の技術を活かし、アートとして近代建築に使うことで世界的にその技術が再認識されるようになった。また、多くの人に親しんでもらえるよう、生活用品の中にデザインとしてアクセント的に用いられている欄間の技術であるが、

欄間そのものが持つ、「そこにあることで放つ光」を無くしてはならないと考える。

「欄間は日本のステンドグラス」

【今後の展開】

①「紅花文化」のストーリー構成要素としての安部権内家の保存と新規活用を考える。

②谷地高生に安部権内家を知ってもらう。

→　総合文化部と地域の方たちで安部権内家を伝えていく。

屋敷を利用し、地域の人たちとの写生会や書初め、茶会などを実施する。

【これからの課題】

地域の文化や歴史を伝承し守る保存会の方々の高齢化に伴い、活動を引き継ぐ人たちを育てることが必要である。

3　調　査

1：安部権内家とは

江戸時代末期天保頃から建築が始まり、寄棟造りの主屋（図１）は安政元年（1854）に建てられた。二階建ての新座敷は大正３年（1914）に建てられた。敷地は東西 85m、南北 62m で、約 1300 坪である。

屋敷の構成（図２）　①火番小屋（図３）　②黒塀蔵屋敷　③薬医門　④六角井戸　⑤主屋　⑥新座敷（図４）　⑦座敷蔵　⑧厩舎　⑨井戸屋形　⑩旧籾倉　⑪土蔵

図１　安部家　主屋

図２　安部家敷地配置図

【安部家】

初代は享保 12 年（1727）生まれ。安部家は宝暦７年(1757）頃に、村内の八兵衛家から分家した、初代権内に始まる。明治６年（1873）の立附米調査では、2,386 俵余の年貢米を集める、村山郡内第四位の巨大地主となる。十代家主が亡くなる平成 20 年（2008）まで続いた。

2：欄間とは

欄間は、日本の建築様式にみられる建具 の一種。 採光、通風、装飾の目的のために天井と鴨居や長押との間に設けられた開口部材をいう。彫刻欄間、透かし彫り欄間（図 7･8）幾何学的な筬欄間や組子欄間といった日本の伝統工芸の手法を用いた彫刻が施される。

図３　安部家火番小屋

図４　安部家離二階上段　透かし彫り欄間　屋久杉

安部権内家の欄間に関する考察

＜心＞　透かし彫り欄間「屋久杉盧雁」　蘆雁の図・雁の峰越（図 5）

一夫一妻の盧雁は妻の名を呼びながら飛ぶという東北地方の言い伝えがモチーフとなる。夫婦添い遂げ、一族の先頭に立ち荒波を越え当主として皆を守り抜くという思いが込められている。

＜美＞　透かし彫り欄間　屋久杉「瑞雲に鳳凰桐葉」「笹に柏」

透かし彫りであることで二間続きの和室に奥行きをつくり、室内にいながら、自然の風景の中にいるような感覚になる。屋久杉の美しい木目の流れが空気感や風景として感じ取ることができる。

組子欄間　紗綾形（変形網代）（図 6）

連続文の卍つなぎは不断長久を表すものとして、家の繁栄や長寿の意味を持つ縁起の良い柄であり、「お守り」としての意味も持つ。

＜粋＞「牡丹〔冨貴草〕」＋蝶（図 7）

安部家の欄間は「花札」を由来としているのではないか。

今のところ９個を確認

→しかし、1807 年～1885 年まで花札は禁止されていた。

松桐坊主の役札となる「松に鶴」「桐に鳳凰」「芒に月」の欄間

図５　安部家　透かし彫り欄間　屋久杉　蘆雁の図・雁の峰越

図６　安部家　組子欄間　紗綾形（変形網代）

図７　安部家「牡丹〔冨貴草〕」＋小壁に蝶

なぜ小壁を作って欄間にし蝶を彫ったのか。「牡丹に蝶」の役札

図８　名古屋城上洛殿二之間欄間　北東面

＜謝辞＞　株式会社岡本銘木店様、NPO 法人「安部権内家保存会」の皆様からの多大なる資料提供とご支援に感謝申し上げます。

＜参考文献＞　日本遺産認定記念　町指定文化財「沢畑の安部権内さん」 ～その屋敷と魅力～、～絵で見る安部家、安部家が伝えてきた品々～、～安部権内家を保存する会伝えてきた品々～（NPO 法人安部権内家保存会）/ 河北町の歴史中巻（河北町誌編纂委員会）/ 演澤山 長楽寺史/ 名古屋城公式ウェブサイト https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/